

きゅうりの担い手育成

■背景とねらい

当管内は比較的温暖な気候を生かした果菜類の生産が盛んである。その中でもきゅうりは主力品目となっており、新規就農者の多くが経営の柱として位置付けている。しかし、既存のきゅうり農家の高齢化等により、栽培面積は減少傾向にある。

このため、今年度はきゅうり栽培を開始して3年以内の新規就農者を対象とし、定期的な巡回や研修会を開催し、きゅうり担い手の育成を行った。

■本年度の取組

1 重点対象者への巡回

今年度からきゅうり栽培を始めた新規就農者を中心に7名を選定し、令和2年4月～10月まで、月に1回以上の巡回指導を通じて重点的に指導した。4月には課題と目標を設定し、課題解決と目標達成に向けて取り組んだ。

2 南信州きゅうり青空教室の開催

きゅうり栽培を始めて3年以内の新規就農者を対象に令和2年7月7日と7月30日に開催した。内容は収穫直後の栽培管理と、高温障害への対策をテーマとし、生産者のほ場をお借りして現地講習形式で行った。



きゅうり青空教室の様子

3 きゅうり新規栽培者情報交換会の開催

きゅうり栽培を始めて3年以内の新規就農者を対象に、今年度のきゅうりの作柄を振り返り、次年度へ向けた課題や目標を明確にすることを目的に、令和2年11月24日に開催した。

■本年度の成果

1 重点対象者への巡回

重点対象者の巡回を通じて、7名のうち4名は実績単収が目標単収を上回る結果となった。また、令和3年1月14日に開催した南信州青年農業者活動成果交換会には意見発表1名、プロジェクト発表1名が参加し、取り組んだ活動の成果を発表した。

2 南信州きゅうり青空教室の開催

第1回の参加者は13名、第2回の参加者は7名であった。ほ場で栽培の様子を確認しながらの説明は好評であった。研修後には参加者同士で意見交換を行う場面が見られ、農家間の交流が図られた。

3 きゅうり新規栽培者情報交換会の開催

参加者は14名で、今年度の反省検討会やJA等関係機関からの情報提供を行った。また参加者からは今年度の栽培の良かった点と課題、次年度の目標を発表してもらい、農家間で意見交換をするよいきっかけとなった。



■今後の課題と対応

今年度はきゅうり栽培にとって気象条件が厳しく、7月の長雨と8月の高温乾燥による、排水不良や病害虫の発生で栽培に苦戦した新規就農者が多かった。次年度以降も引き続き、新規就農者を対象とした研修会とほ場の巡回を行い、栽培のレベルアップを関係機関とともに推進していく。

(地域第二係:天野 瑠佳)